

目 次

論 文

Development in lexical and syntactic complexity through

EAP after five-month study abroad programmeジェイソン・パイプ… 3
対馬輝昭

線形回帰分析における複数個の観測値についての

誤差分散の影響力評価.....竹内秀一… 29

保健雑誌に見られる 1960 年代のへき地教育言説の転換

—地域メディア『岩手の保健』のへき地語りの変容に注目して—.....高井良健一… 45

読解授業における大学生のストラテジー使用意識

—授業前後の使用傾向からの示唆—.....三宅若菜… 81

啓蒙期ヨーロッパにおける他者創出（アザリング）の政治（下）

—世界の再分割と人種論の顕現—.....李孝徳… 95

研究ノート

Realigning divergent paths:

Facilitating mutual learning between international students'

collaboration projects in Nepal and Vietnam関昭典…121

シュリヤ・デブコタ

ハン・ホアン

長距離走パフォーマンスを評価するための

トラック走での乳酸カーブテストの開発.....鈴木康弘…145

私立大学の防災（風水害）に関する取組の実態調査報告.....角田浩司…155

翻訳と注解

「節孝還魂」田中景…173

報 告

2022 年度学事報告

学事報告

2022年度の全学教育共通センターの学事に関し、開催行事と教員著書の2点について以下に報告します。

【開催行事】

2022年12月10日 総合教育演習ゼミ報告会に10ゼミが参加し、19名が発表を行った。

2023年2月2日 「総合教育研究」発表会で4名が発表を行った。

2023年2月17日 全学教育共通センター教授会において「2022年度「総合教育演習」履修者アンケート集約」のテーマでFD会議が行われた。

【教員著書】

麻生 博之 著	『啓蒙の弁証法を読む』	岩波書店 (共著)
大岡 玲 著	『一冊に名著100冊がギュッと詰まった凄い本』	日刊現代 (単著)
澁谷 知美 著	『どうして男はそうなんだろうか会議——いろいろ語り合ってみてきた「これからの男」のこと』	筑摩書房 (編著)
上野 麻美 著	『室町期浄土僧聖聡の談義と説話』	新典社 (単著)

(『人文自然科学論集』編集委員会)

東京経済大学人文自然科学研究会会則

- 第1条 本会は東京経済大学人文自然科学研究会と称する。本会の事務局は東京経済大学全学共通教育センターにおく。
- 第2条 本会は人文・社会・自然科学およびこれに関連する研究並びにその普及を目的とする。
- 第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 機関誌『人文自然科学論集』の発行
 2. 研究会および講演会の開催
 3. その他運営委員会において適切と認めた事業
- 第4条 本会の正会員は次の者とする。
1. 東京経済大学全学共通教育センターに属する専任教員
 2. 東京経済大学の専任教員および専任教員であった者で、入会を希望する者
- 第5条 前条に該当しない（特任教員をふくむ）者は、正会員1人の推薦と運営委員会の承認により準会員になることができる。
- 第6条 本会の会費は別に定める。
- 第7条 本会に会長、運営委員、機関誌編集代表、会計、監事をおく。
- 第8条 会長は全学共通教育センター長が兼任する。
- 第9条 運営委員は5名とし、正会員の中から互選する。任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第10条 機関誌編集委員会は運営委員5名からなる。編集代表は運営委員5名の中から互選する。編集代表の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第11条 編集代表は機関誌の特定の号の編集に際して、運営委員以外の臨時的編集委員を若干名おくことができる。
- 第12条 会計、監事は各1名とし正会員の中から互選する。任期は2年とし、再任を妨げない。
- 第13条 会員は機関誌『人文自然科学論集』の配布を受ける。
- 第14条 本会則の変更は、人文自然科学研究会会員総会の決議による。
- 附則 本会則は2014年4月17日より実施する。

東京経済大学人文自然科学研究会会則細則

- 第1条 本会の会費は当分の間、これを徴取しない。
- 第2条 会計、監事については当分の間、これをおかず、運営委員がその任にあたる。

『人文自然科学論集』 投稿規程

第1条 『人文自然科学論集』に投稿できる者は、次の各号のいずれかに該当する者に限る。

1. 人文自然科学研究会の正会員および準会員
2. 共著論文における人文自然科学研究会の正会員および準会員の共著者
3. 編集委員会により承認または依頼を受けた者

第2条 投稿原稿の種類は、おおむね次の各号に定めるとおりとする。

1. 論文：オリジナルな研究論文で、内容の主要な部分が学術論文としてほかに印刷媒体、または電子媒体・インターネットにて発表されていないもの。
2. 研究ノート：研究過程で得られたオリジナルデータ、研究手法、術語などについての報告または紹介。および特定のテーマ・分野についての啓蒙的解説。
3. 資料：人文・社会・自然科学およびこれに関連する研究分野の資料の翻訳、解説、解釈。
4. 翻訳と注解：人文・社会・自然科学およびこれに関連する研究分野の論文等の翻訳およびその注解。
5. 書評：人文・社会・自然科学およびこれに関連する研究分野の学術的図書についての書評。
6. 討論：本誌に掲載された論文についての学術的討論。
7. 研究会・学事報告：人文自然科学研究会に関連した行事や会員の出版物等についての報告。全学共通教育センターに関連した学事の報告。「総合教育研究」において本学学部学生により執筆された論文のタイトルおよび要旨。

第3条 投稿原稿（表題、著者氏名、要旨、本文、謝辞、注、参考文献、図・表等をすべて含む）の制限枚数は原則として次の通りとする。なお『人文自然科学論集』の刷り上がり1ページ（版面は133mm×216mm）の文字数は以下になるので、著者各自が責任を持って投稿原稿のページ数を見積もること。

- ・日本語、中国語などの全角文字で最大1394文字（41字×34行）／ページ
- ・欧文などの半角文字で最大2788ストローク（82ストローク×34行）／ページ

1. 論文：刷り上がり35ページ以内
2. 研究ノート：刷り上がり35ページ以内
3. 資料：刷り上がり35ページ以内
4. 翻訳と注解：刷り上がり35ページ以内
5. 書評：刷り上がり7ページ以内
6. 討論：刷り上がり7ページ以内
7. 研究会・学事報告：刷り上がり7ページ以内

刷り上がりページ数については、投稿規程細則の記載に従って概算する。

第4条 前条の制限枚数を越える原稿については連載とすることができる。

第5条 和文投稿原稿には欧文のタイトルと、欧文の著者氏名をつけること。

第6条 和文の論文には外国語のアブストラクトまたはサマリーをつける。外国語の論文に

は和文のアブストラクトまたはサマリーをつける。ただしアブストラクトまたはサマリーをつけることが一般的でない学問分野の論文については、その限りではない。

第7条 投稿原稿の採否は、閲読を経た上で、編集委員会で決定する。

第8条 編集委員会が、投稿原稿の掲載を相応しくないと判断したときは、当該投稿者に理由を付し、掲載不許可の通知を行う。

第9条 本規程の改正は編集委員会の発議により、人文自然科学研究会会員総会の決議による。

附則 本会則は2014年4月17日より実施する。

『人文自然科学論集』投稿規程細則

1. 投稿原稿は、電子データを研究課（教員室紀要担当：以下同様）に提出する。あわせてエントリーシートも提出する。提出原稿には下記の原稿カテゴリ（論文，研究ノート，等）を明示する¹⁾。閲読を経て掲載可となった場合，必要な修正を行ったのち，デジタルデータ（電子ファイル）を研究課に提出する。閲読を経て原稿区分やタイトル等に変更があった場合はエントリーシートも再提出する。デジタルデータの形式については，後述する。
2. 日本語投稿原稿には英語のタイトルと氏名をつけること。これに加えて，ほかの言語によるタイトルと氏名をつけてもよい。英語タイトルについては，論集裏表紙等にも掲載されるので，その形式についても注意を払うこと。詳細については下の第7項を参照のこと。
3. 日本語の論文には外国語（原則として英語とするが，ほかの言語でも可）のアブストラクトまたはサマリーをつけること。外国語の論文には日本語のアブストラクトまたはサマリーをつけること。ただし，アブストラクトまたはサマリーが一般的ではない学問分野ではその限りではない。
4. 投稿原稿が掲載された場合，冒頭には論文タイトル，サブタイトル，英語などに翻訳したタイトル（省略可），執筆者名，ABSTRACT/SUMMURY（省略可），目次（省略可），キーワード（省略可）が記される。①全角横書き，②全角縦書き，③半角欧文横書き，それぞれの例を本学の機関リポジトリにアップされている論文（URL）で示すのでそれに準拠すること。
 - ① 全角横書きの場合：
<https://repository.tku.ac.jp/dspace/bitstream/11150/11672/1/jinbun149-03.pdf>
 - ② 全角縦書きの場合（1段と2段があるが形式的には同じ）：
<https://repository.tku.ac.jp/dspace/bitstream/11150/10916/2/jinbun140-03.pdf>
<https://repository.tku.ac.jp/dspace/bitstream/11150/11753/1/jinbun150-16.pdf>
 - ③ 半角欧文横書きの場合：
<https://repository.tku.ac.jp/dspace/bitstream/11150/11675/1/jinbun149-06.pdf>
5. デジタルデータ
デジタルデータの形式は以下の通りとする。
 - ① テキスト部分
 - イ) MS-Word（2003以降），plain text形式を推奨。
 - ロ) 数式を含むものはTeX，MS-Wordの数式editorを推奨。
 - ハ) 縦書き希望の場合，上記ファイル形式によるテキストデータ提出で組版可能。

- ニ) pdf ファイルはテキスト抽出に難があるため避けること。
- ホ) 図・表の挿入位置を必要に応じて、テキスト中に指示する。ただし組版により位置は変わりうることに留意すること。

② 表

- イ) 基本的に印刷会社で組み直す。
- ロ) MS-Word, MS-Excel などテキスト抽出可能なファイル形式で提出。

③ 線画

- イ) 多くのファイル形式に対応可能であるが、tiff または ai ファイル推奨。
- ロ) ai ファイルの場合、作成したソフトのバージョン情報を明記する。

④ 写真

- イ) jpeg ファイルあるいは、加工を行った場合は psd ファイル推奨。
- ロ) 解像度としては 600 dpi 以上ある事が望ましく、デジタルカメラの画像であれば 800 万画素以上が望ましい。
- ハ) pdf ファイルでの写真提出は RGB カラーモードになっていることが多く、CMYK カラーモードでの印刷に適さないのを避けること。

6. 英文タイトルについて

英文タイトルはエントリーシートに記載のものを転記して使うため、表示形式含めて注意して記述する²⁾。表示形式については下記の方針とする。

- ① 原則的に「センテンススタイル」で記述する。
- ② ただし、著者の希望がある場合はその限りではない。
- ③ 論文中のタイトルの書式については特にルールを設けない。

【資料】 センテンススタイルについて

- (1) タイトルとサブタイトルの最初の単語（コロン「:」やダッシュ「—」の直後）、およびその後の固有名詞と固有形容詞の最初の文字だけを大文字にする。

例 1 : Natural crisis: Symbol and imagination in the mid-American farm crisis (トウラビアン 2007: 439)

例 2 : Religious feminism: A challenge from the National Organization for Women (トウラビアン 2007: 439)

例 3 : The last supper (トウラビアン 2007: 439)

例 4 : Mental and nervous diseases in the Russo-Japanese war: A historical analysis (APA 2017: 201)

例 5 : Inferior rectus muscle transposition is effective for treating acquired bilateral superior oblique palsy: A meta-analysis (エディテージ 2020: 193)

例 6 : The house of Rothschild: The world's banker, 1849-1999 (三舎社 n.d.)

- (2) タイトル中に本の題名がある事例

例 7 : There is a valuable lesson to be learned in *The Princess Bride*: One should

never get involved in a land war in Asia (Becker, June 30, 2011)

- (3) ハイフン「-」つき複合語の2番目以下の語についても大文字で始めない。

例8: Sample-size calculations for Cohen's kappa (APA 2017: 108)

例9: Seeing and selling late-nineteenth-century Japan (トゥラビアン 2007: 439)

- (4) タイトルに学名が入る事例

例10: Latitudinal variation in the reproductive characteristics of the Asiatic wild dog (*Cuon alpinus*) in India (エディテージ 2020: 194)

〈文献〉

- ・アメリカ心理学会 (2017) 『APA 論文作成マニュアル』医学書院
- ・エディテージ (2020) 『英文校正会社が教える英語論文のミス100』ジャパンタイムス出版
- ・三舎社 (n.d.) 「三舎社ブックラボ」<http://www.kksanshusha.jp/booklab/archives/395>
- ・トゥラビアン (2007) 『シカゴ・スタイル研究論文執筆マニュアル』慶応義塾大学出版会
- ・Becker, David (June 30, 2011) Capitalization after colon.
<https://blog.apastyle.org/apastyle/2011/06/capitalization-after-colons.html>

注 _____

- 1) 読者からしばしば、投稿カテゴリについての問い合わせがあるため。
- 2) 英文タイトルは、論集本体の裏表紙および学術リポジトリに反映される。

執筆者紹介（掲載順）

ジェイソン・パイブ	関東学院大学・専任講師
対馬輝昭	本学・教授
竹内秀一	本学・教授
高井良健一	本学・教授
三宅若菜	本学・特任講師
李孝徳	本学・教授
関昭典	本学・教授
シュリヤ・デブコタ	アジア教育交流研究機構・研究員
ハン・ホアン	アジア教育交流研究機構・研究員
鈴木康弘	本学・教授
角田浩司	本学・図書課長
田中景	本学・准教授

人文自然科学論集 第154号

〈非売品〉

発行 2024年2月14日

編集者 李 孝 徳

編集人 東京経済大学人文自然科学研究会
〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34
電話 042-328-7959（直通）
FAX 042-328-7772

印刷・製本 株式会社 精興社
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-9
電話 03-3293-3021（直通）

送付に関するお問い合わせ先

本学では、「紀要」交換業務は、図書館が行っております。

東京経済大学図書館・「紀要」担当

〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34
電話 042-328-7763（直通） FAX 042-328-7777